

脳波で診る救命救急

意識障害を読み解くための脳波ガイドブック

原著：Suzette M. LaRoche, Hiba Arif Haider

訳：吉野 相英



評者 久保田 有一 東京女子医大足立医療センター教授・脳神経外科

まさに ICU 脳波モニタリングのバイブル

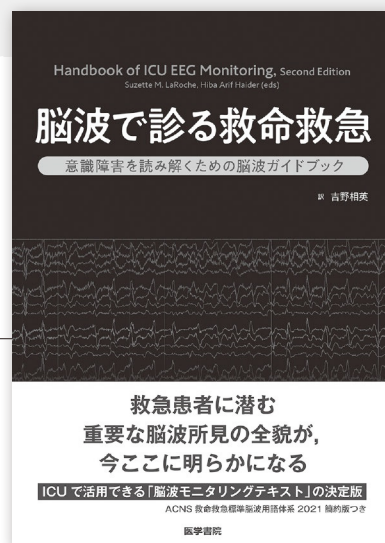
待ちに待っていた一冊が出た。神経救急や神経集中治療を行う者にとっては、バイブルの一冊である。私は 2009～2011 年の米国クリーブランドクリニックてんかんセンター留学中に多くの ICU 脳波を判読していた。このころは、米国において ICU 脳波モニタリングが爆発的に広がっているときであった。そのときには教科書もなく、意識障害の患者の脳波が多様で判読に難渋していた。帰国後の 2012 年に『Handbook of ICU EEG Monitoring』の初版が発売となった。本邦でまだ一般的でなかった ICU 脳波モニタリングを実施する必要性に迫られた私にとっては、求めていた全てのことがこの一冊に書かれていた。この本には「ACNS Standardized Critical Care EEG terminology 2012」が引用され、ICU 脳波モニタリングにおける代表的な波形パターンが紹介されており、ようやく救急脳波の分類化が始まったことを感じさせた。その後、さらなる ICU 脳波モニタリングのエビデンスがさまざまな施設から発表され、2018 年に第 2 版が出版された。本書は、この第 2 版の日本語訳版である。しかも本書を手にとってみると、なんと 2021 年に ACNS から出された「ACNS Standardized Critical Care EEG terminology 2021」

までもが本書の最後に附録として含まれている。本書を全て読むことで、ICU 脳波モニタリングを全て学習することが可能である。

訳者の吉野相英先生は、防衛医大の精神科学の教授である。精神科の教授でありながら、救命救急の本を訳されたというのも大変驚きである。一見そう感じる読者もおられると思うが、至極当然で、吉野先生はてんかん・脳波については大変造詣が深く、すでにそれらに関する著書も執筆されている。また、訳者まえがきにあるように、精神科医として薬物中毒の患者に伴う NCSE（非けいれん性てんかん重積状態）など多くの意識障害の患者の診療に当たっており、脳波を積極的に施行し判読されてこられた。われわれからみても、吉野先生が本書を日本語訳されるに最も適している先生であろうと思う。

ICU 脳波に関する最高の本が、ようやく最高の訳者によって日本語で出版された。ICU や救急で脳波を行う医師は、ぜひ本書を手にとって隅々まで読んでもらいたい。

B5 頁 456 2023 年 3 月 定価：15,400 円（本体 14,000 円＋税 10%）医学書院刊 [ISBN978-4-260-05058-6]



救急患者に潜む
重要な脳波所見の全貌が、
今ここに明らかになる

ICU で活用できる「脳波モニタリングテキスト」の決定版

ACNS 救命救急標準脳波用語体系 2021 随時改訂中

医学書院